

公明党議員団視察報告書

1 視察先・目的

- ・大分県豊後高田市

「学びの21世紀塾事業について」

- ・広島県尾道市

「地域包括ケアシステムの構築について」

2 期間

平成26年8月5日～8月6日

視察報告書

日 時	平成26年8月5日（火） 午後1時30分から午後3時
視 察 先	大分県豊後高田市
視 察 項 目	学びの21世紀塾事業について
視 察 者	公明党議員団（大村 聡、中村千恵子）
視 察 内 容	<p>豊後高田市では、平成14年度から教育のまちづくりの一環として「学びの21世紀塾」を開講した。子どもたちに確かな学力、豊かな心、健やかな体を培うことを目指し、学校教育の基盤の上に始まった事業である。当時、学校週5日制が始まり、休日となった土曜日の子どものための居場所づくり、充実した活動の提供が目的であった。</p> <p>平成14年に学校完全週休2日制が始まり、学力の低下を心配する保護者や地域の声が高まってきた。しかし、少子化が進む人口2万4,000人の市では、子どもが通えるような距離に塾やスポーツ施設はなく、たとえ近くにあっても、経済的な理由で通わせることができないという意見もあり、市長の「子どもの教育に、地域性や経済的な理由によって差があってはならない。もしあるのであれば、その差を解消し、子どもたちの努力によって、夢が実現できるように教育環境を整えることが、私たち大人や行政の責務だ。」との考えから、市長を塾頭に、教育長を副塾頭とする公営の塾「学びの21世紀塾」が誕生した。</p> <p>この「学びの21世紀塾」は、休日の土曜日を利用した寺子屋講座やパソコン講座などの『いきいき寺子屋活動』事業、各地区公民館が実施する『わくわく体験活動』事業、スポーツ少年団が放課後を利用して実施する『のびのび放課後活動』事業の3事業からスタートした。</p>
所 感	<p>全国から注目を集める「教育の町」、お金をかけずに学力アップに成功した町と以前テレビでも報道されており、楽しい視察であった。</p> <p>何といてもユニークな部分は講師の顔ぶれで、その多くが市民から選ばれた人材である。才能豊かな市民が講師を務めている。講師選びの決め手は、人と人との確かなつながりである。小さな町ならではの強みであろうか。さらには、もともと教育に熱心な土地柄であり、町ぐるみで教育を支えようという意気込みが伝わってきた。また、この塾のOBの大学生が、自分たちを育ててくれた「学びの21世紀塾」で、今度は教える立場として協力したいと、冬期講習のサポート役など、生徒のよき相談相手も務めているとのことであった。「学びの21世紀塾」で育った若者たちに、ふるさとで家族を持って暮らしてもらうことが市の課題とのことであるが、積極的にふるさとに戻りたいと思っているOBが出始めており「教育のまちづくり」のコンセプトが息づいていると感じた。コミュニティ・スクールも既に6校指定を受け、残り10校も準備段階に入っているとのことであり、子どもたちの夢を育むための学校改革が大きな成果を生んでいる大変に参考となる視察となった。</p>

日 時	平成26年8月6日(水) 午後1時30分から午後3時30分
視 察 先	広島県尾道市
視 察 項 目	地域包括ケアシステムの構築について
視 察 者	公明党議員団(大村 聡、中村千恵子)
視 察 内 容	<p>尾道市における市民病院でのケアシステムは、患者の思い、生活、生きる姿勢を最優先にしたケアに徹している。</p> <p>その特徴は、1つ目として、平成6年から「尾道方式」、21年には「尾道方式・新・地域ケアおのみち2009」として独自にケアシステムを実施している。2つ目として、地域全体の取り組みとして、医師会・病院・薬剤師会・社会福祉協議会・民生児童委員・ケアマネジャー・公衆衛生協議会・保健推進委員など多職種であり、多数の関係団体や専門的立場の市民がかかわって実施している。3つ目として、施設・在宅ともに生活者の視点に立って、ケアシステムを構築している。4つ目として、高齢者になっても、障がいがあっても、最後まで住み続ける暮らしやすいまちづくりを目指したケアシステムとしていることなどが挙げられる。</p> <p>今回視察した、尾道市立市民病院では、地域医療支援病院として地域医療連携に取り組んでいる。開業医との連携強化、退院支援における医療機関、施設、在宅など、どこで生活しても切れ目のない適切なサービスが提供されている。また、在宅での生活を入院前から見据えた看護ケアにより、スムーズな在宅支援につなげる取り組みを実施し、活動する在宅支援看護師を配置している。</p> <p>また、退院後の問題点や生活状況などの情報を収集する退院前カンファレンスにより、患者から日常生活者への移行のための治療・ケアの連続性を保証する取り組みを行っている。患者視点に立った依存から自立(支え合って生きる)への移行を支援している。</p>
所 感	<p>今後の超高齢化社会にあって、重要課題である医療との連携強化、多様な生活支援や地域での見守りの充実強化など、尾道市では尾道方式として先駆けて取り組んできた。何よりも在宅による生活がより快適に安心して暮らせるように重層的なシステムとなっている。</p> <p>ますます伸展する高齢化とともに、人生最後までどのように暮らすか、暮らしたいか、本人はもち論、家族の意向を尊重することは人権的課題でもある。同市の取り組みは、本市が抱える高齢化問題、介護問題の解決に大いに参考となる取り組みであった。</p> <p>より「安心」な暮らし、より「信頼」できるシステムを目指し、患者の立場になって実施されている尾道市民病院の地域医療連携、多職種協働の包括システムは一人ひとりを大切にする思いにあふれていた。本市においても西知多総合病院が平成27年に開院となるが、地域包括システムの拠点病院として大いにその機能を活用し、「知多方式」システムの構築を進めてもらいたいと願うものである。</p>